

オーストラリアレポート

豪州準備銀行は政策の様子見姿勢を維持

- 豪州準備銀行 (RBA) は8会合連続で政策金利を1.50%で据え置く決定を下し、政策の様子見姿勢を維持。
- RBAは豪州景気の見通しを概ね維持。実質GDP成長率は今後2~3年にわたって3%強の水準へ上昇すると予想。
- RBAは豪州景気力強さが増すに連れ、基調インフレ率の一段の上昇を見込む。今後は賃金上昇の行方が焦点に。
- RBAの政策金利は当面据え置かれる公算が高い。市場予想でも2017年末までの政策金利据え置きの見方が大勢。

RBAは政策金利を据え置き、様子見姿勢を維持

豪州準備銀行 (RBA) は5月2日の金融政策理事会において、政策金利を1.50%で8会合連続で据え置き、政策の様子見姿勢を維持しました (図1)。

RBAは従来からの豪州景気見通しを概ね維持

フィリップ・ロウ総裁の声明文では、世界経済の回復が広がりを見せており、世界的な雇用環境の引き締めりと経済見通しの上方修正傾向が続いていることが指摘されました。

一方、豪州景気に関しては、RBAの景気見通しは従来から概ね変わっていないとの見方が示されました。RBAによれば、豪州の実質GDP成長率は今後2~3年にわたって3%強の水準へ緩やかに上昇すると予想されています。RBAの経済見通しの詳細は5月5日の四半期金融政策報告で公表される予定です。

賃金上昇の行方が雇用・物価判断の焦点に

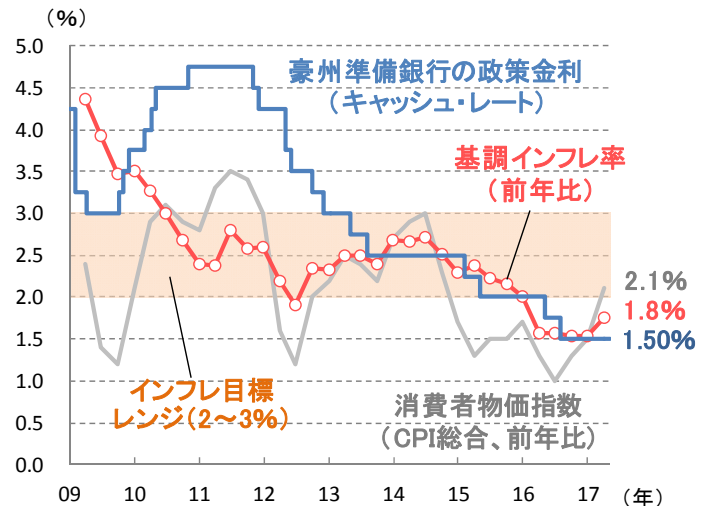
豪州の2017年1-3月期の消費者物価指数 (CPI) は前年比+2.1%と、インフレ目標レンジ内へ回復しました。基調インフレ率も1-3月期は前年比+1.8%へ緩やかに持ち直しており、RBAでは景気力強さが増すに連れ、基調インフレ率の一段の上昇が予想されるとの見方を示しました。

雇用環境に関しては、足元で雇用が力強さを増しつつあるものの、失業率が高止まりしていることなどから、労働市場の指標は強弱が混在しているとの判断が示されました (図2)。今後は雇用環境の緩やかな改善が賃金上昇に波及するかがRBAの雇用と物価判断の焦点となりそうです。

市場では年末まで金利据え置きの見方が大勢

政策の様子見姿勢の維持により、RBAの政策金利は当面据え置かれる公算が高いと考えられます。ブルームバーグ集計の市場予想でも、2017年末まで政策金利が据え置かれるとの見方が大勢となっています。

図1：豪州準備銀行 (RBA) の政策金利とインフレ率



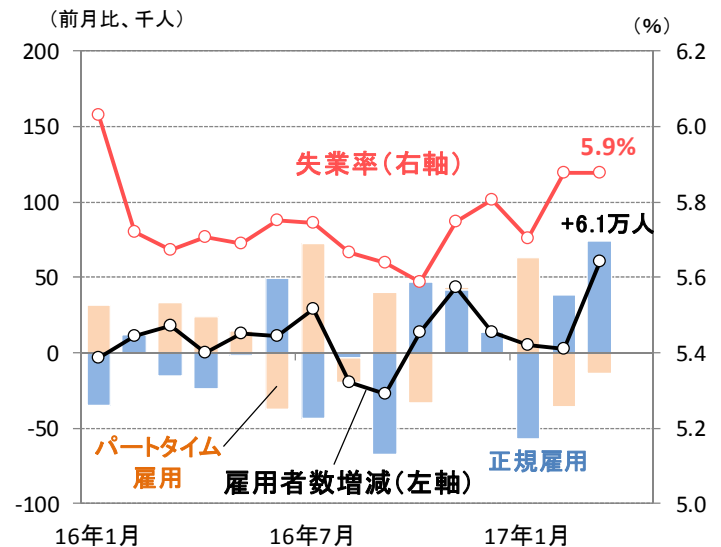
(出所) 豪州準備銀行 (RBA)、豪州政府統計局 (ABS)

(期間) 物価指標：2009年1-3月期~2017年1-3月期

政策金利：2009年1月1日~2017年5月2日

(注) 基調インフレ率は消費者物価指数 (CPI) のトリム平均値 (平均値を算出する際、データの最大値と最小値付近の値を計算から除外) と加重中央値の平均により算出。

図2：豪州の失業率と雇用者数増減



(出所) ABS (期間) 2016年1月~2017年3月

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はいくつかも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。